



営農ウィークリーNEWS

水稻・カメムシ類の防除を行ってください！



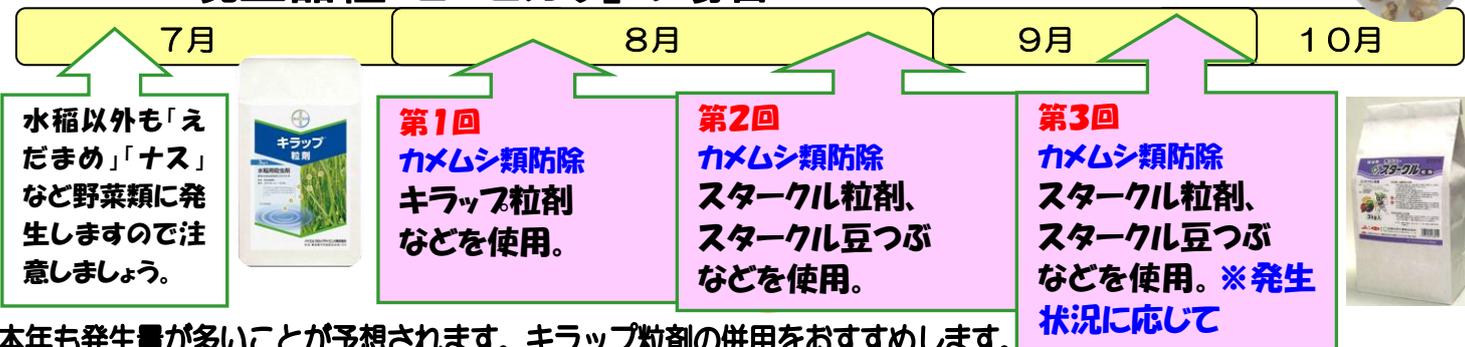
ミナミアカメムシ



イネカメムシ

近年、カメムシ類による斑点米が多発し、品質を低下させています。JA管内の西南部地域を中心に発生している**ミナミアカメムシ**も生育地域を拡大し続けております。また、出穂期に圃場に侵入して籾の基部を吸汁し、不稔籾を生じさせる**イネカメムシ**にも注意が必要です。住家となる雑草地や休耕田、畦畔の雑草を除去する事で、発生を軽減できます。カメムシ類の多くは、ほ場周辺の雑草管理を徹底することが発生の低減につながります。畦畔などのイネ科雑草で増殖するため、**出穂の2週間前までに水田周辺の除草を徹底して行うことが重要です**。その後、収穫時までには除草作業を控え、水田への侵入を防ぐことも大切です。

晩生品種「ヒノヒカリ」の場合



本年も発生量が多いことが予想されます。キラップ粒剤の併用をおすすめします。

高温対策も忘れずに

1. かけ流し灌漑を行う。
2. 籾数過剰にならないよう1回目の穂肥を半分にする。一発肥料で元肥量が少く追肥をする場合は、追肥量を減らす。
3. 出穂10～20日前のフジワンプック施用(4kg/10a)。出穂10～20日前但し、収穫30日前まで・2回以内「高温登熟下における白未熟粒の発生軽減」。発根促進による吸水量、光合成量の増大を図る。6月5～10日植えの場合、8月5～15日頃施用。**※投げ込み用の「フジワンプック」もあります。**



※フジワンプック(殺菌・植物成長調整剤) 高温登熟下における白未熟粒の発生軽減・登熟歩合向上。
出穂10～20日前但し、収穫14日前まで・2回以内、小包装のまま投げ入れる。
小包装(パック)15個(1,125g)/10a

—TAC information—

いもち病にも注意してください！



本年は、梅雨明けが観測史上最も早かったものの7月上旬頃からの降雨量が多いことや日照不足の影響により、葉いもちが山間部や多肥圃場で発生しています。いもち病は、気温25～28℃が繁殖適温で、湿度90%以上の日が連続し、日照時間が短い時に発症します。圃場を観察し、病斑を確認したら、防除を行ってください。*防除には、コラトップ1キロ粒剤12、ブラシン粉剤DL、ブラシンフロアブルなどを使用してください。



みのり姫のふれあいマルシェ

7月21日、2022年度、4回目となる農産物や加工品の即売会「みのり姫のふれあいマルシェ」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じて行いました。

みのり姫のふれあいマルシェは、新たな販路の確立と管内農産物の消費拡大を目的として、支店等の遊休スペースを活用して行ってきました。

今回は、マルシェの来店者の集客増と開催日を啓発する目的として、JAバンク京都信連さんの事業を活用して新調したPR資材のノボリやテーブルクロスを設置しました。



当日は、旬を迎えている「京都茄子」「京おくら」が多く持ち込まれ、「京都茄子」「京おくら」の購入者にオリジナルのミニウチワが配布され来場者の人気を集めました。

「みのり姫のふれあいマルシェ」は、毎月1回、第3木曜日の定期開催を計画しており、午前10時30分～午後2時（売切れ次第終了）まで実施することとしています。

当日は、旬を迎えている「京都茄子」「京

